

1 対象地区の現況及び特性

(1)地区の現況特性

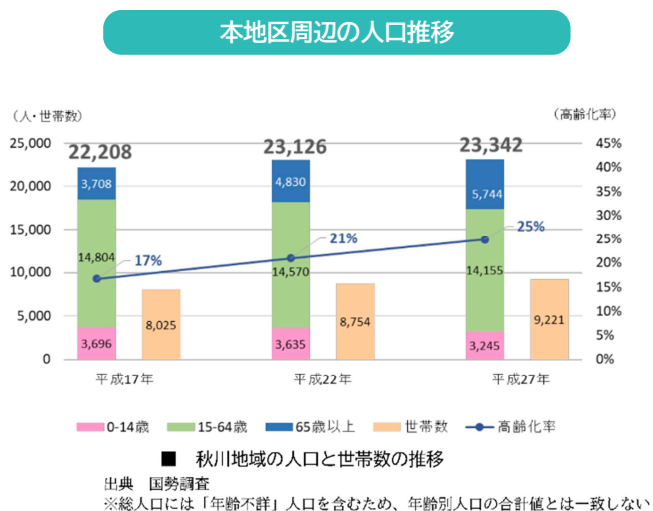
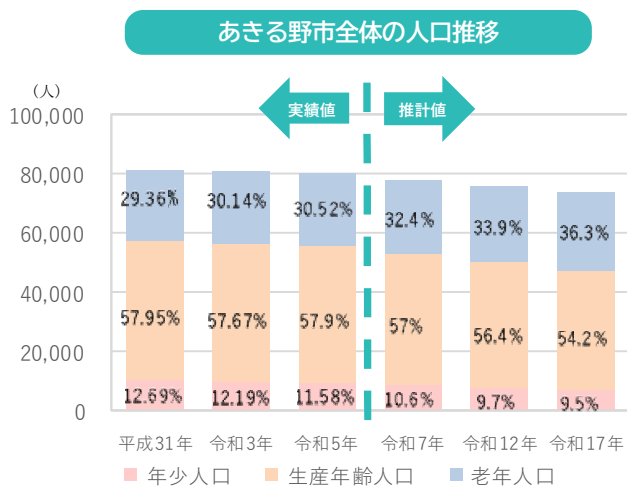
本市や本地区周辺、本地区内における現況と特性について整理する。

【人口】

本市の総人口は、平成24年から減少に転じており、市街地整備等により、一部の地域で増加傾向にあるものの、全体として年少人口及び生産年齢人口は減少傾向にあり、少子高齢化が進んでいる。

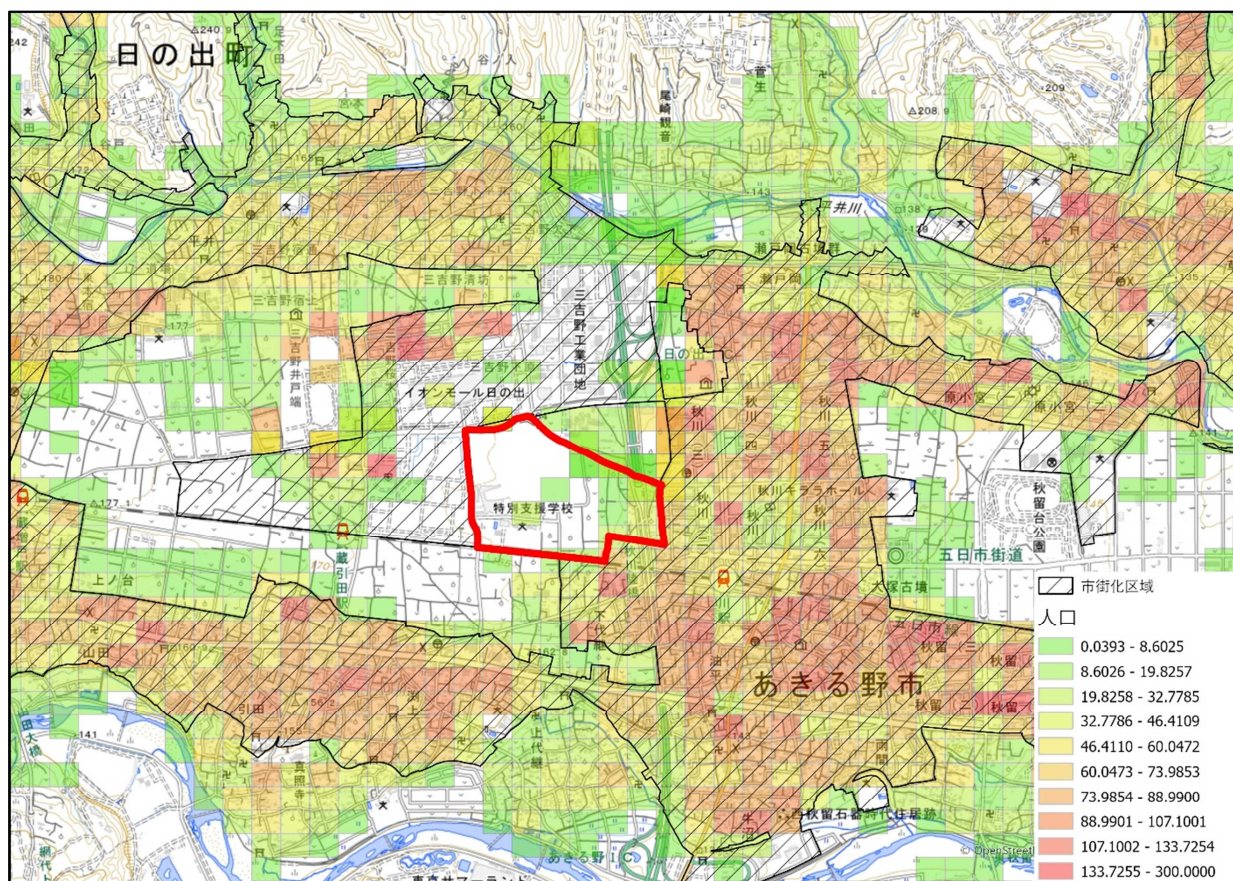
本地区周辺の人口分布(令和2年国勢調査)を100mメッシュ(P6参照)で表現すると、秋川駅周辺及び圏央道日の出IC周辺の市街化区域に多くの人口が分布している。

また、人口増減率(平成27年国勢調査～令和2年国勢調査)の100mメッシュ(P6参照)では、市全体の人口が減少する中で、秋川駅周辺(商業施設メッシュ以外)やイオンモール日の出周辺(日の出町)では人口増加が見られる。

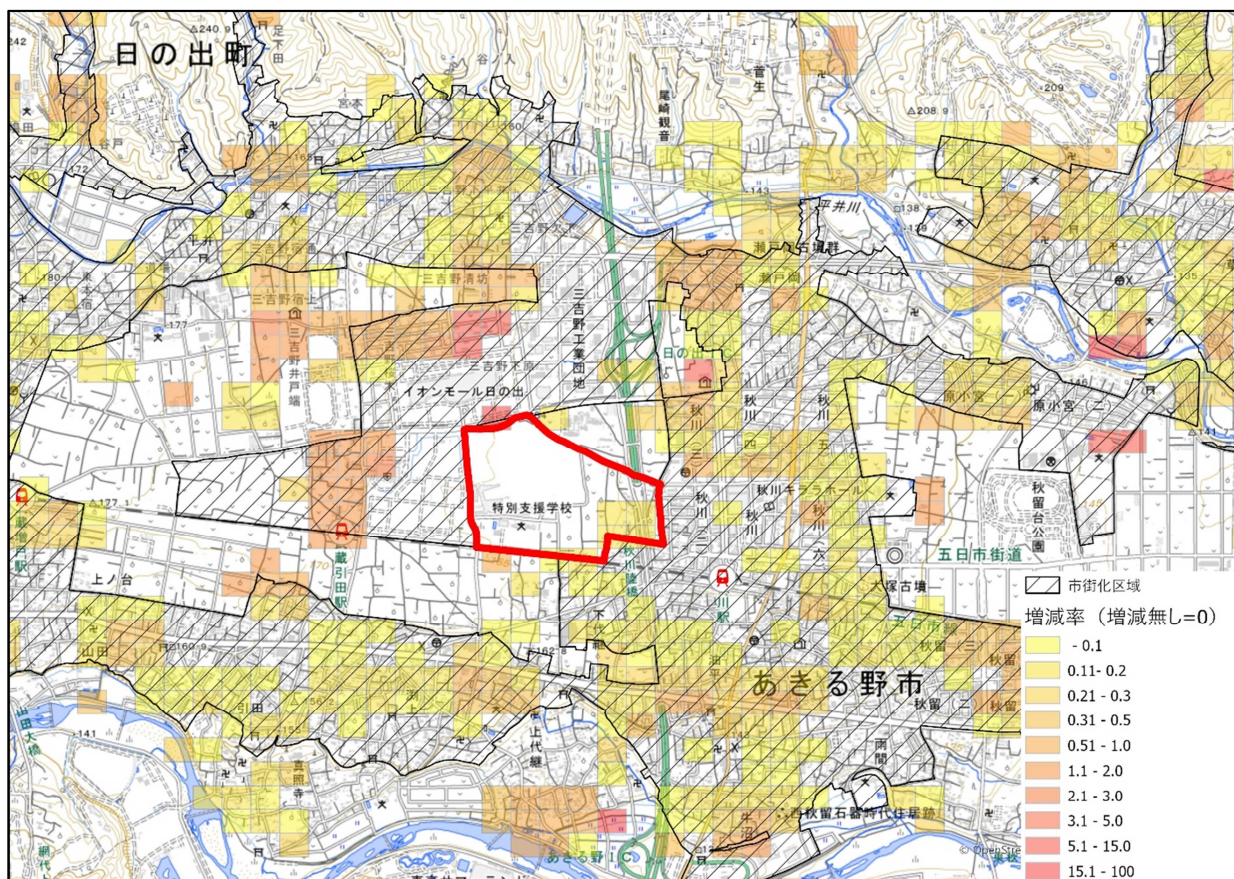


出典：あきる野市都市計画マスタープラン

本地区周辺の人口分布(令和2年)



本地区周辺の人口増減率(平成27年～令和2年)



出典：地域・交通データ研究所を加工

*人口増減率は増加メッシュのみを表示

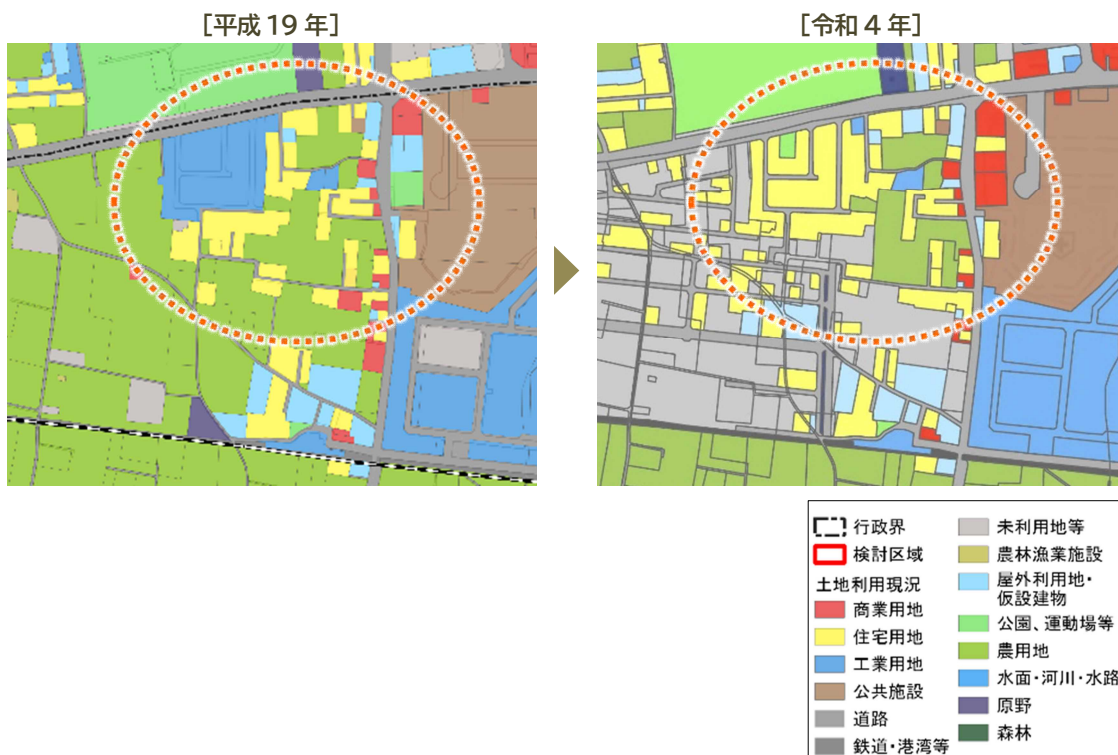
【生活環境】

本市は、自然豊かな秋川丘陵や草花丘陵に囲まれ、台地部には昔からの集落地ごとに市街地が形成されている。

本地区周辺は、台地部の強固な地盤であることから、様々な施設の立地が進み、生活利便性が向上しているほか、コロナ後の生活様式の変化により、住宅需要が高まっている地域である。

本地区の西側では、武蔵引田駅北口土地区画整理事業による住宅系複合市街地の整備に伴い、道路等の基盤整備が進められ、住宅が増加しているとともに、研究所、大型商業施設、福祉施設、学校など、様々な建物が立地している。また、豊原・早道場地区(P17 参照)の圏央道周辺では、戸建て住宅が立地している。

本地区周辺における土地利用の変遷



出典：土地利用現況調査

【産業】

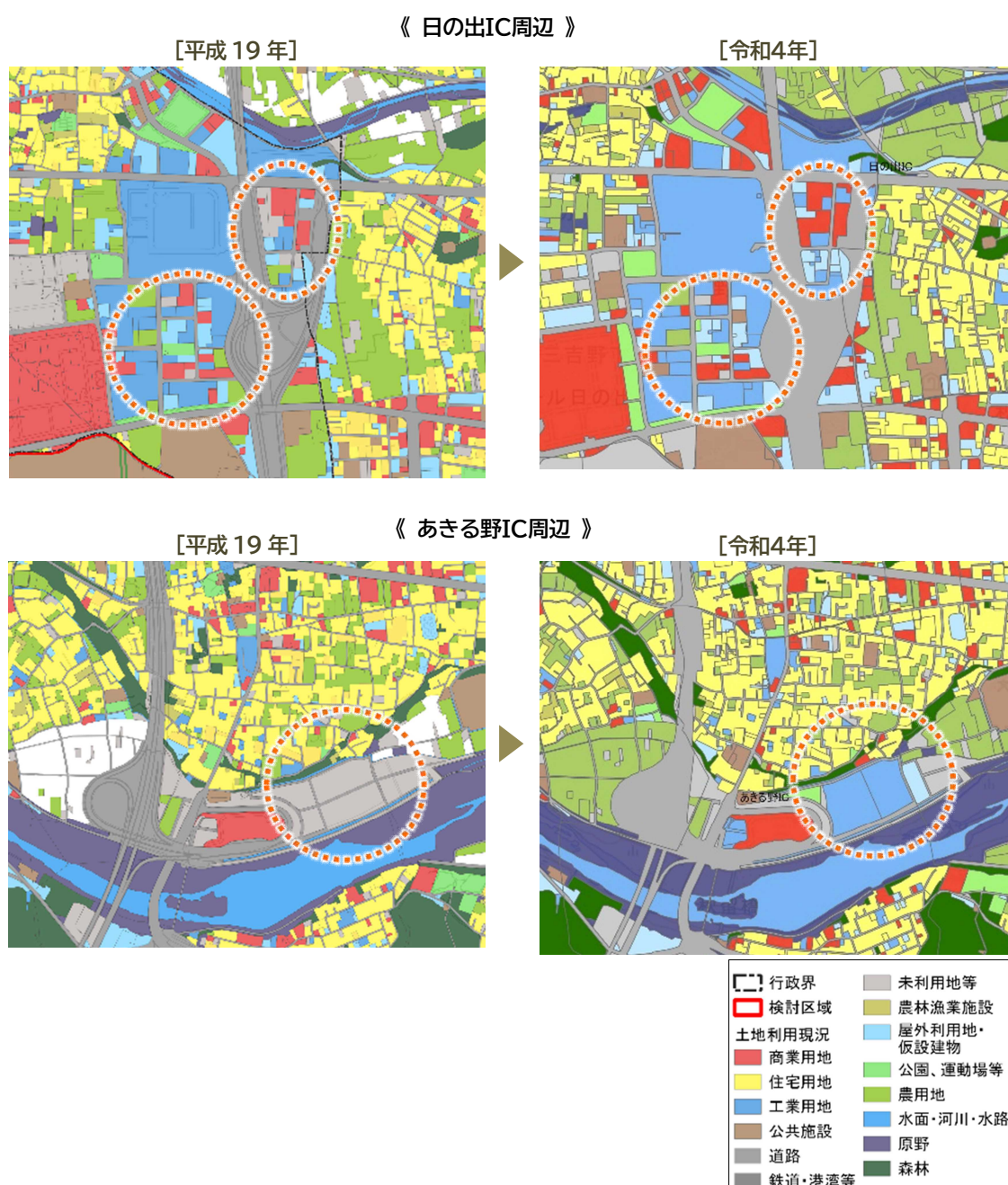
本市は、近隣自治体と比較すると、地域経済循環率が低く、秋川溪谷をはじめとする、観光資源や産業との結びつきが弱い。

本地区は、圏央道日の出 IC から1km 圏内に位置し、圏央道による産業需要が高い地域であり、圏央道開通以降、日の出・あきる野 IC 周辺や武蔵引田駅周辺において、産業立地が進んでいる。

[近隣自治体との比較表(青梅市・羽村市・福生市・昭島市・日の出町)]

項 目	あきる野市	青梅市	羽村市	福生市	昭島市	日の出町
地域経済循環率(%)	75.4	77.1	166.7	66.7	124.7	99.0

IC周辺の土地利用変遷



出典：土地利用現況調査（平成 19 年、令和 4 年）

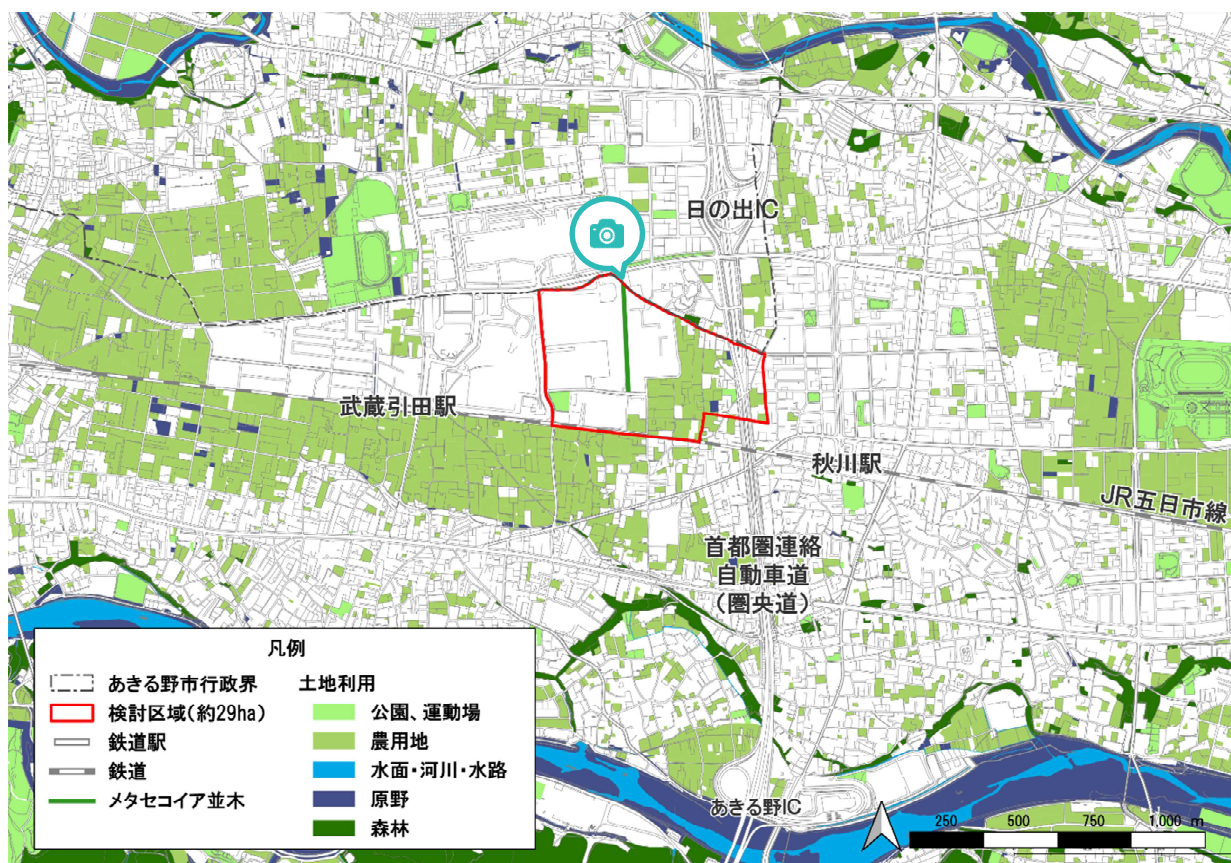
【緑・景観】

本市西部には、日本二百名山の一つである大岳山の山並みや溪谷による自然景観が形成されている。

本地区は、山々や秋川高校跡地の中心に位置するメタセコイア並木、周辺に広がる農地など多くの緑に囲まれ、自然豊かな景観が広がっており、身近に自然と共存できる環境がある。

また、武蔵引田駅から大型商業施設や工業団地にかけて、緑道が整備されており、農の風景が広がっている。特に、豊原・早道場地区の圏央道より西側において、区域の過半を農地が占める状態となっている。

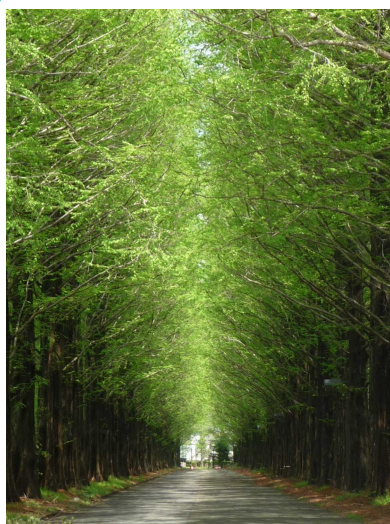
本地区周辺の緑の資源図



出典：都市計画基礎調査



メタセコイア並木



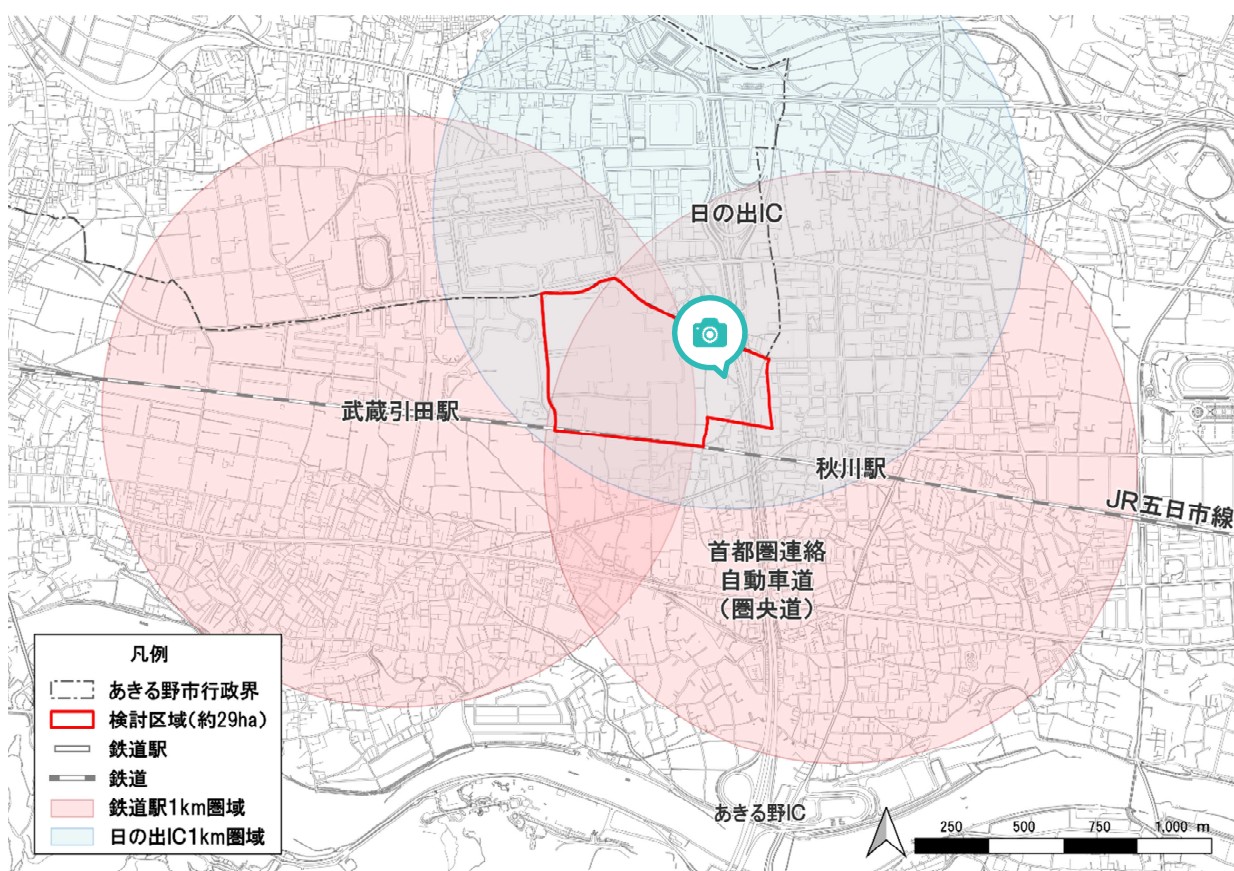
【交通環境】

本市には、首都圏の高速道路ネットワークにおいて、環状機能を有する圏央道(日の出 IC、あきる野 IC が利用可能)が整備されており、東名高速道路をはじめ、中央自動車道や関越自動車道、東北自動車道、常磐自動車道への高いアクセス性が確保されている。

本地区は、2つの鉄道駅(JR五日市線秋川駅・武蔵引田駅)から約1km 圏内に位置しており、鉄道の利便性にも恵まれている。また、幅員12m以上の道路に接しているものの、地区内は道路をはじめとする都市基盤において、狭あいな生活道路があるなど、脆弱な状況となっている。

携帯電話位置情報を活用した自動車交通量分析によると、平日休日ともに、周辺の東西軸となる道路の交通量が比較的多くなっている。(P11参照)

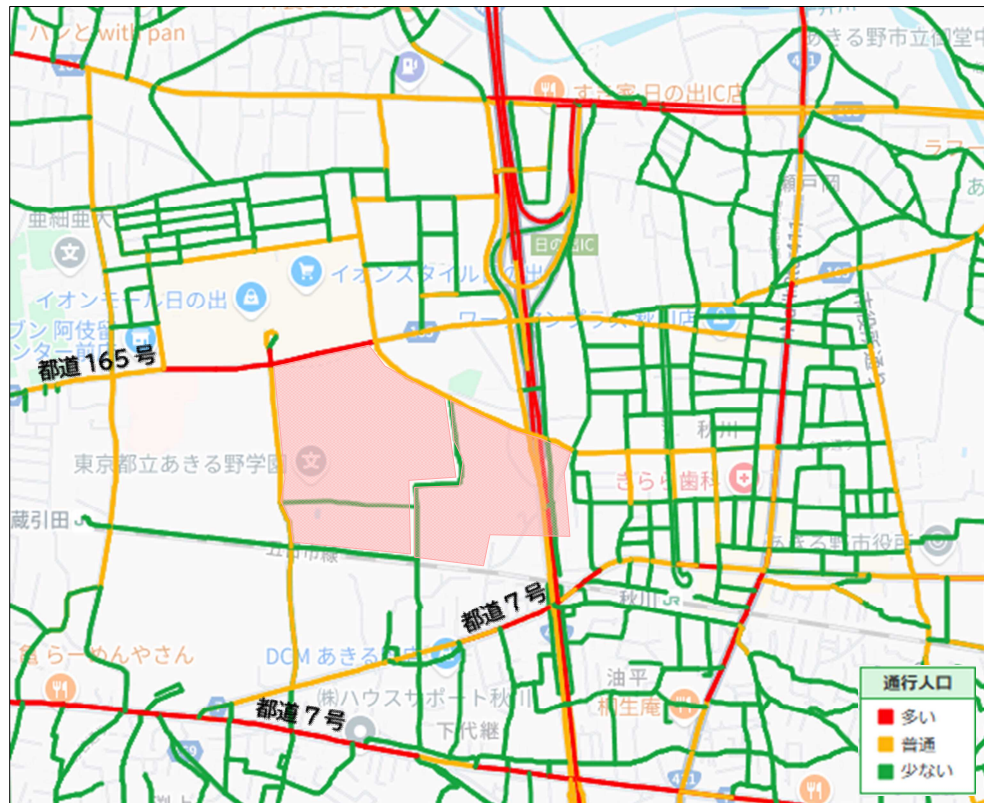
本地区周辺の現況図



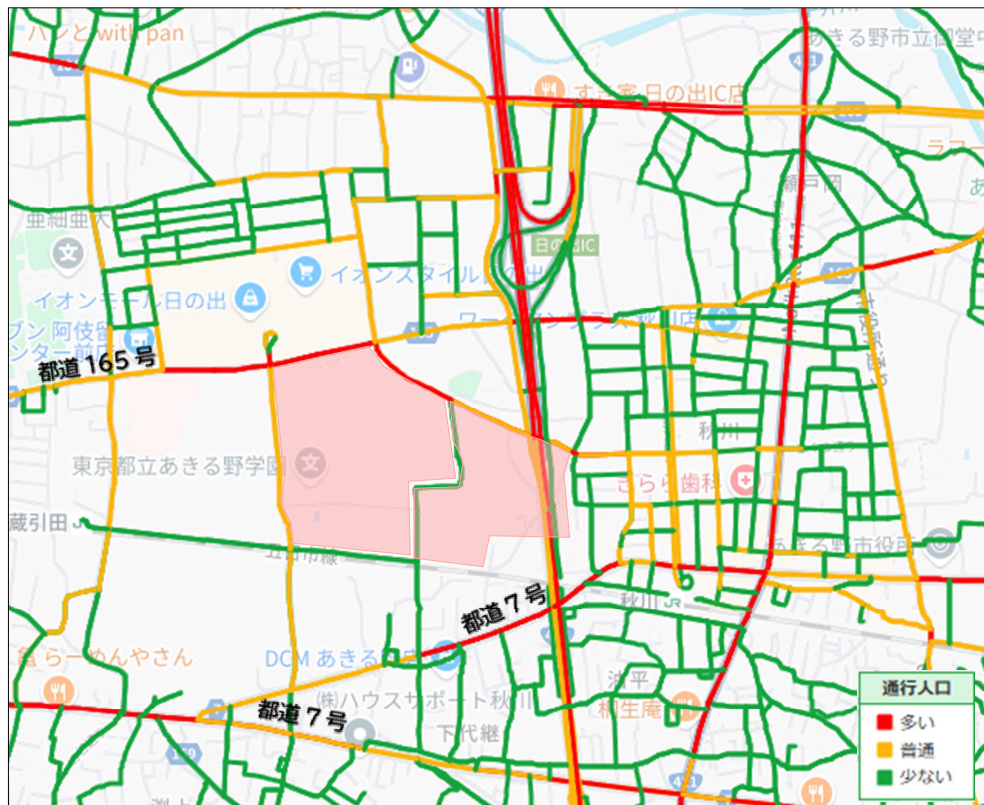
本地区の狭あいな生活道路



本地区周辺の自動車交通量(休日)



本地区周辺の自動車交通量(平日)



出典：KDDI Location Analyst を加工

(2)近年の社会課題・まちづくりのトレンド

近年のまちづくりを取り巻く社会課題は多様化・複雑化しており、まちづくりのトレンドも変化している。

社会課題

■人口減少、少子高齢化の進行

- ・全国的に人口減少、少子高齢化が進行しており、経済規模の縮小や労働力不足など様々な社会的・経済的な課題が深刻化
- ・本市においても、総人口が平成24年をピークに減少、年少人口及び生産年齢人口の割合が減少傾向にあるが、100mメッシュ分析(P6)では、秋川駅周辺や武蔵引田駅北口では人口増が見られる(平成27年、令和2年の国勢調査)

■地域コミュニティの希薄化

- ・地域づくりの基礎となる地域コミュニティが、若者の流出やコミュニティ構成員数の減少等により希薄化しており、災害対応などの多様化する地域課題への対応が難しくなっている
- ・本市においても、少子高齢化や核家族化、共働き家庭の増加に伴い、地域におけるコミュニティ活動の参加者や担い手の高齢化及び減少が進んでいる

■環境問題の深刻化

- ・気候変動や生物多様性の低下など、環境問題の深刻化によって国際的に環境への意識が高まっている
- ・本市においても、持続可能な社会づくりの推進に向け、緑の保全や地球温暖化対策を重要視している

まちづくりのトレンド

■コロナ後の生活様式の変化

- ・感染症の影響下において、デジタル化が加速し、新しい生活様式や暮らし方の多様化に対応した社会基盤の整備や仕組みの構築が求められている
- ・本市においても、ライフスタイルの変容を捉えた取組の実施により、市の魅力を高め、定住人口・交流人口の増加を目指している

■コンパクトシティの推進

- ・全国的にコンパクトシティ政策が進められており、生活利便性の維持・向上等に向け、居住や都市機能の集積が推進されている
- ・本市においても、人口や年齢構成に即したコンパクトなまちづくりを視野に入れ、公共施設の適正配置などを検討している

■ウォーカブルなまちづくりの推進

- ・都市の魅力を向上させ、まちなかににぎわいを創出するため、多様な人々が集い交流する「居心地がよく歩きたくなるまちづくり」が推進されている
- ・本市においても、地域活性化に向け、楽しく歩けるまちづくりの推進に取り組んでいる

■子ども子育てにやさしいまちづくりの推進

- ・こどもの遊び場や親同士の交流の場の整備など、こども・子育て支援環境の充実に向けた取組が推進されている
- ・本市においても、社会全体で育児を支える仕組みづくりや技術革新、ライフスタイルの変容を捉えた支援策の検討・推進に取り組んでいる

2 まちづくりの課題

本地区の現況や上位関連計画、「秋川高校跡地及び秋川高校跡地周辺地区のまちづくりに向けた有識者会議提言書」等を踏まえ、まちづくりの課題を以下のとおり整理した。

産業機能の不足

■ IC 周辺の高い交通アクセス性を生かした産業用地の確保

- ・日の出 IC から 1km 圏内の立地環境を生かした産業用地の確保に向けて、受け皿となる基盤が必要
- ・本地区の立地ポテンシャルを生かした、一体的かつ計画的な市街地開発事業による、新たな産業拠点の形成を図ることが必要

■ 地域の活性化に向けた雇用の創出

- ・市内全体の産業基盤が不足している中、人口減少の抑制や地域経済の活性化に向けて、市内雇用の場の創出を目指すことが必要

■ 地域特性に合った産業の育成

- ・地域内外の資源を有効活用しつつ、地域産業と地域社会が連携し合い、相互に支え合う仕組みを構築し、地域特性やニーズに合った産業の育成を図ることが必要

生活機能の充実

■ 鉄道駅周辺の都市機能集積を生かした更なる生活利便性の向上

- ・秋川駅や武蔵引田駅の徒歩圏域にあり、かつ周辺に商業施設等が立地する環境があることから、これらを生かしつつ、新たな住宅や生活施設の立地による生活利便性の向上を図ることが必要

■ 新たな住居ニーズへの対応

- ・職住近接の考え方やネイバーフッドコミュニティの形成、自然や農と調和したゆとりある居住環境が必要

■ 都市基盤の整備

- ・本地区東側においては、農地や狭あい道路に点在した居住環境が形成されており、道路をはじめ、良好な住環境を誘導するための環境整備が必要
- ・特に周辺地域の利便性向上に資する道路ネットワークの構築が必要

交流機能の創出

■ にぎわいやコミュニケーションの促進に向けた地域交流の場の創出

- ・本地区周辺には、地域交流の場となる公園等が計画的に整備されていないことから、地域のコミュニケーション等の充実が図られるような公園・広場などの整備が必要

■ 地域にある豊かな緑資源の保全と活用

- ・本地区内には地域のシンボルであるメタセコイア並木が地域に開放されておらず、維持管理の問題もあり、生かされていない
- ・地域にある貴重な緑資源の保全と活用を図りつつ、自然に密着した生活環境の形成に資する活用や保全を目指すことが必要

■ イノベーションの創出

- ・本地区周辺には独立した多種多様な産業、生活環境があり、それぞれのポテンシャルをさらに高めるため、交流・融合等による新たな価値を創出することが必要